

# 外壁塗膜防水材料

## セブンウォール

2液型アクリルシリコーン樹脂塗料  
(なみがた仕上げ弱溶剤系)

高耐候型／標準型

# 施工要領書

# 下地処理

## 1. 下地摘要範囲

現場打ちコンクリート(RC)、プレキャストコンクリート部材、軽量気泡コンクリート(ALC)、モルタル、コンクリートブロック、石綿スレート板など。

## 2. 下地調整

### ●新築の場合

- ① 施工下地の乾燥時間は、通常コンクリートで4週間以上とし、含水率8%以下、アルカリ度PH10以下などを目安に、防水材との接着が損なわれない程度の乾燥を必要とする。
- ② モルタルの浮き、硬化不良、欠け(傷)、ALC板の破損、亀裂等は、予め現場係員の指示を仰ぎ適切な処置を行う。
- ③ 下地表面に、ほこり、セメントノロ粉、エフロレッセンス、型枠剥離剤の残存物などが付着している場合は、ワイヤーブラシ、サンダー、シンナーなどで除去清掃する。
- ④ 下地の不陸、目違い、突起(でっぱり、すじ、波打ち)、豆板、気泡穴などがある場合は、はつり、サンディング、モルタル補修、パテ処理を行い、仕上げ模様により許容できる範囲に調整する。
- ⑤ 下地のヘアークラックは、刷毛又はゴムベラなどで、セブンウォール主材を拾い塗りし、クラック部分は埋め込む。  
大きなクラックはUカットし、シーリング材等を充填し、更に下地調整材等で平滑に仕上げる。(シーリング材の選定に注意して下さい。)
- ⑥ モルタル仕上げの場合は、木ゴテまたは、金ゴテ仕上げを行う。

### ●改修下地の場合

- ① 下地の浮きや、強度不良になっている箇所はサンディング処理し、大きな凹部は、弾性モルタル等で補修処理する。  
小さな凹部、クラック部は、セブンウォール主材1:2珪砂粉または、寒水粉(重量比)練り込んで補修する。
- ② リシン吹付面下地では、骨材の粗面が目立たない程度にケレンするか、下塗後、セブンウォール主材を捨て塗り平滑にする。
- ③ 特殊材料で仕上げられている下地については、その都度打合せの上、下地処理を行う。

# セブンウォールの施工

□ セブンウォールの工程(S工法) なみがた模様弱溶剤上塗り仕上げ

工程	使用材料	希釈 (重量%)	所要量 (Kg/m <sup>2</sup> )	塗り 回数	工程間隔 (時間)	使用器具	
1	下塗り	セブンウォール シーラー #200	無希釈	0.15	1	2以上	ローラー(中毛)、 スプレー、刷毛など
2	主材基層 塗り	セブンウォール主材	清水 2~3	1.0	1	5以上	多孔質ローラー
3	主材模様 塗り	セブンウォール主材	清水 2~3	1.0	1	24以上	多孔質ローラー
4	上塗り 標準型	セブンウォールトップ MSマイルド	セブンウォールトップMS ライト/マイルドシンナー 5~20	0.3	2	5以上 (工程内)	ローラー(中毛)、 スプレー、刷毛など
	上塗り 高耐候型	セブンウォールトップ MSライト	セブンウォールトップMS ライト/マイルドシンナー 5~20	0.3	2		

上塗り:2液弱溶剤型アクリルシリコン標準型 及び 高耐候型どちらかを選択して下さい。2回塗り計0.3kg/m<sup>2</sup>です。

□ 施工環境

- ① 気温5℃以下、湿度80%以上の施工は、使用材料の造膜性に支障をきたす恐れがあるので、施工を避ける。
- ② 降雨降雪、霧発生の恐れがあるときは、施工を避ける。
- ③ 風速5m/sec以上の時は、飛散公害防止のため、適当なシート養生を施し、施工に十分注意する。
- ④ 養生材には、ポリフィルム、クラフト紙、新聞紙などを、粘着テープで貼り付け、塗装面以外の箇所を汚染しないようにする。
- ⑤ 下塗り材セブンウォールシーラー #200及び、上塗材セブンウォールトップMSマイルドは、溶剤型を使用しているため、火気に十分注意する。

# セブンウォールの標準施工方法

## 1. 養生

## 2. 施工前の注意

施工に入る前に試験塗りをを行い、パターン、色を十分に確認する。

## 3. シーラー処理

下地の吸い込みむらを防止し、下地と主材との接着をより強固にするために、セブンウォールシーラー#200をスプレー、ウールローラー、刷毛などで、下地面に均一にむらなく無希釈で十分塗塗付する。

## 4. 主材塗り 多孔質ローラーは一般的に黄色の粗めですが、オレンジ色粗目が良好です。

### ●ベース塗り

① 材料は、上下層を攪拌機で、気泡の入らないよう均一に混合して使用する。

② 水は希釈しないで使用できるようになっている。

気温、湿度等の状況により必要に応じて2~3%の水道水で調整する。

③ セブンウォール主材を1.0Kg/m<sup>2</sup>均一にむらなく塗付する。

④ 基層塗りの塗膜は、防水層として機能を果たせるもので、十分に注意して均一にむらなく仕上げる。

⑤ 5時間以上乾燥させる。

### ●模様塗り

① 材料は、上下層を攪拌機で、気泡の入らないよう均一に混合して使用する。

② 水は希釈しないで使用できるようになっている。

気温、湿度等の状況により必要に応じて2~3%の水で調整する。

③ ベース塗りをした塗膜の上に、パターンを形成するため、セブンウォール主材を1回目同様に1.0kg/m<sup>2</sup>を重ね塗りする。

④ 所定の模様になるようにローラー運行を調整する。

⑤ 24時間以上乾燥させ、次工程に入る。

## 5. 上塗り

セブンウォール上塗り材は、主材層の汚れを防ぎ、美観を保持するため、使用します。

セブンウォールトップMSマイルド 又は、セブンウォールトップMSライトを、だれ、むらなどに注意して、エアレススプレーローラー、刷毛などで均一に規定量を2回塗りして仕上げる。

セブンウォールトップMSマイルドは、専用シンナーで5~20% (重量比) 希釈し、よく混合した後、(2回塗り) 所要量0.3/m<sup>2</sup>を使用して仕上げる。

# 注意事項

## 1. 施工上の注意事項

- ① 施工途中、乾燥途中で雨が降ってきたときは、少なくとも塗膜が乾燥するまでテントなどで覆って流出しないように処置する。  
流出した場合は全面除去して再施工を行う。一部が流出した場合は、その箇所を切り取り、セブンウォール主材をコテまたは、ヘラなどで塗り付け、予め下地を作成し、塗り継ぎがないように塗付ける。
- ② 施工完了後、汚れ、傷などが表面に生じたときは、主材または、上塗り材にて再施工する。
- ③ 養生テープは、施工後、直ちに取り外す。  
時間が経った時は、必ずナイフカットして取り外す。
- ④ 乾燥途中で水をかけない様にする。
- ⑤ 汚染箇所は拭き取る。
- ⑥ 引渡しにあたっては、足場解体前に、現場係員の立ち会い検査を行う。

## 2. 保管上の注意事項

- ① 風雨、直射日光を避け、常温保管を心掛ける。
- ② セブンウォール主材、玉吹材の保管は0°C以上の場所で保管する。
- ③ セブンウォールシーラー#200、セブンウォールトップMSマイルド及び、MSライトは溶剤のため火気厳禁です。

# 使用材料一覧表

製品名	容量	荷姿
セブンウォールシーラー #200	16Kg	石油缶
セブンウォール主材	18Kg	石油缶
セブンウォールトップMSマイルド 6:1	14Kgセット	石油缶
セブンウォールトップMSライト 14:1	15Kgセット	石油缶
セブンウォールトップMSライト・マイルドシンナー	16ℓ	石油缶



東京都新宿区西新宿7-17-14(源共同ビル)  
TEL 03(3366)2616 FAX 03(3366)2619  
e-mail kuroyanagi@seven-chemical. co. jp  
e-mail hukuda@seven-chemical. co. jp